

平成 21 年 6 月 22 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2008

課題番号：19520058

研究課題名 (和文) シンハラ資料を用いたマハーボーディヴァンサの研究

研究課題名 (英文) Study of the Mahābodhivamsa Using Sinhalese Material

研究代表者

松村 淳子 (MATSUMURA JUNKO)

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授

研究者番号：10239080

研究成果の概要：19世紀末にローマ字版がパーリ文献協会から出版されながら、その後の研究も翻訳もほとんど無かった『マハーボーディヴァンサ』(大菩提樹史)について、その解読の助けとなる中世シンハラ語による資料を収集し、その梗概を把握して学会や論文で発表した。また、これらの資料のうち特にパーリ語本文の解読にもっとも重要と考えられたシンハラ語版『シーハラ・ボーディヴァンサ』(14世紀)の第1章本文をユニコード・フォントによりデジタル化してHP上に公開するとともに、パーリ語本文の解読を試みた結果、中世期スリランカのパーリ文献が、失われたシーハラ・アッタカターの伝統を受け継いでいると見られる独自の内容を含むことと、また時に顕著な大乘仏教的な要素が見られることを確認した。研究の結果、これまでその評価がなおざりにされていた、当該文献の価値の再確認とスリランカ上座仏教研究史上での位置付けを行い、パーリ文献研究における中世シンハラ資料の価値と有用性を確認することができた。

交付額

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 2,000,000 | 600,000 | 2,600,000 |
| 2008年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学全般、パーリ仏教、上座仏教、マハーボーディヴァンサ、中世シンハラ語、スリランカ、菩提樹、

1. 研究開始当初の背景

(1) パーリ語文献中でも *vamsa* と名のつく様々な年代記文学 (*chronicle*) は、歴史文学や歴史的資料を殆ど残さなかったインド文化圏の中において、非常に特殊な事例として注目されている。しかし中世期以降のパーリ仏教文献の研究は、全体的に研究が遅れている。その理由は、仏教研究者が第一に、聖典及びその直接の注釈であるアッタカター文献の研究に集中してきたことが主たるものであるだろうが、もう一つは古代シンハラ語で伝えられたとされる聖典の注釈文献や付随文献（口承伝承も含む）が、早くに失われたという学会全体の思い込みがあり、中世期以降の文献類についてはパーリ研究の最初期（19世紀末～20世紀初頭）に、様々な資料についてヨーロッパ人学者によるローマ字テキスト化や研究の動きがあったにもかかわらず、その後ほとんど手をつけられていない状態であった。

(2) 本研究課題に取り上げた『マハーボーディヴァンサ』は、1891年に S.A.Strong がローマ字テキストを Pali Text Society から出版したものの、スリランカにおける伝統的な翻訳以外に、近代言語における翻訳・研究は皆無に近いものであった。しかし、*vamsa* と名付けられる年代記文学が、スリランカにおいて古代シンハラ語で伝えられた伝承（*sīhalaṭṭhakathā*）に基づくものであるというシンハラ人自身の主張は、これらの文学の本文を精査することによって、明らかになりつつあり（例えば N. A. Jayawickrama, *The Chronicle of the Thūpa and the Thūpavamsa* (PTS:1971), pp.xxvi-xxx), すでに研究が進んでいる聖典やその注釈文献に含まれる伝承とは異なる複数の古い伝承の存在を明らかにすることは、スリランカ仏教文献の歴史をさらに明確にすることにつながる。また、釈

迦が成道を成し遂げた菩提樹への信仰は、今も南方仏教、特にスリランカでは根強く、宗教学的な意味でも重要である。

2. 研究の目的

(1) 難解なパーリ語 *Mahābodhivamsa* (11～12世紀) の解読のために、その直後に著されたシンハラ語の難解語注釈、シンハラ語版 *Sīhala Bodhivamsaya* を、パーリ語本文の解読に役立つようローマナイズ・テキストを作成し、Geiger が作成したシンハラ語語彙集を補充する基礎とし、今ではシンハラ人ですら読解できない中世シンハラ語と、対応するパーリ語、サンスクリット語を提示して、パーリ文献研究者、ならびに、シンハラ語学や関係諸学の研究に役立てることである。

(2) 第二の目的は、シンハラ語資料を利用して、読みにくいパーリ語 *Mahābodhivamsa* の内容を解読し、中世シンハラ仏教の諸相を明らかにすることである。特に菩提樹信仰は、仏舎利信仰、とりわけ仏齒信仰と並んで、シンハラ仏教徒にとって、宗教的・社会的・政治的に非常に重要な意味をもつものであり、その信仰を支える原理を構成しているものを明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 平成 19 年度は、シンハラ資料の入手のため、ドイツ・ゲッティンゲン大学所蔵の故ハインツ・ベッヒツェルト教授のコレクションを調査し、『マハーボーディヴァンサ』のシンハラ語版である『シーハラ・ボーディヴァンサヤ』、スリランカで最も古いといわれる『グランティパダ・ヴィヴァラナヤ』（難解語注釈）等入手し、パーリ文第 1 章の解読を進めた。シンハラ資料の分量が予想以上に多いことから、パーリ本文解読上もとても効率性と有用性の高いと思われる、『シーハ

ラ・ボーディヴァンサヤ』のユニコード・フォントを用いたローマ字化を行い、その研究の成果の一部を学会で発表した。

(2) 平成 20 年度は、引き続き『シーハラ・ボーディヴァンサヤ』のユニコード・フォントを用いたローマ字化を進めて完成するとともに、実際に、パーリ語本文と対照してパーリ文の研究を進めた。内容は、すでに他のブッダ伝やスリランカの歴史書等に平行があるので、それらと比較しつつ研究するうちに、場合によっては、パーリだけではなく北伝仏教文献やガンダーラ美術との関係も検討する必要性が明らかになり、随時、研究方法の中に取り入れた。語彙集については、研究期間内に、発表できる体制には至らなかったが、今後の随時公開する準備を整えている。

4. 研究成果

(1) 平成 19 年度は日本印度学仏教学会（四国大学）で、*Mahābodhivaṃsa* の第 1 章の「スメーダ・カター」について研究成果を発表し、またその内容を当該学会誌に英文で発表した。仏教が小乗から大乘へ発展する内的契機を含むこの物語のパーリ文献中の位置付けを研究するなかで、当該文献の中に明らかに大乘的な「般若」思想が見られること、また輪廻の「荒海」の代わりに「荒野」という法華経などに見られる表現も見出され、それがシンハラ語資料によっても裏付けられることを確認した。平成 20 年度は、ソウル、アトランタ、アヌラーダプラ（スリランカ）の学会で研究成果を発表した。

(2) シンハラ・仏教文献の資料収集のためにドイツとスリランカに調査に赴いた。特にスリランカでは、地理・地誌的情報や、口承伝承を採取する必要性を感じていたので、各年度 1 回ずつ調査を行ったが、現地調査を通じ

て、地理的記述の正確さが必ずしも、パーリ文献において、成立年代がより古いとされているもののほうが正確とは言えないことを立証するとともに、副産物的成果として正当パーリ文献には含まれないものの、北伝仏教ないし大乘仏教文献ではよく知られ人気のある仏教説話がスリランカでもよく知られていることが、古い寺院の壁画によって知ることができた。その一つである *Aluvihāra* の洞窟壁画では、日本の『玉虫厨子』に描かれるのと全く同様に、「捨身聞偈説話」と「施身飼虎説話」が同じ洞窟の壁面に描かれているのを発見した。この他にも別の寺院で「施身飼虎説話」が描かれていたが、それぞれ北伝仏教文献の別のものと一致する内容であり、有名な『金光明經』とは全く違うことが判明した。この説話がどのようにしてスリランカに知られるようになったかは新たに解明が必要であるが、研究期間の最後にあたり、この説話がシンハラ中世（14～15 世紀）の *Saddharmaratnākara* に含まれているらしいことまで、突き止めることができた。

(3) 研究の結果、ますますシンハラ仏教文献研究の必要性が確認できたが、この分野の研究は現在、スリランカの仏教研究者でも知識に乏しく、また古い資料の入手が困難になりつつあるなか、現存資料の確認・保存と、シンハラ資料の研究ができる研究者グループのネットワークが急務であるとの結論に至っている。また、そのためのツールとして、中世シンハラ文献に使われるシンハラ語語彙データベース（特に、パーリ語、サンスクリット語との対照）の必要を痛感し、作成中であるが、2 年の研究期間においては、まだ作成は緒に着いたばかりであり、今後継続して作成したいと希望している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- ① 松村 淳子 「『仏種姓経註』のスメーダ・カタール」『神戸国際大学紀要』72 号, 15-32, 2007, 査読無
- ② 松村 淳子 “The Sumedhakathā in Pāli Literature: Summation of Theravāda-tradition versions and proof of linkage to the northern textual tradition.” 『印度学仏教学研究』56 卷 3 号, 1086-1094, 2008, 査読有
- ③ 松村 淳子 「南北両伝の捨身聞偈説話 - Dhammasoṇḍaka 王物語と雪山婆羅門物語」『2008 年第 4 次韓国仏教学結集大会論集』651-657, 2008, 査読無
- ④ 松村 淳子 “The Legend of Prince Sāli in Post-canonical Pāli Literature: An Evidence of the *Sīhalaṭṭhakathā* Tradition Inherited by Medieval Sri Lankan Buddhists,” 『国際仏教学大学院大学研究紀要』13 卷, 1-32, 2009 年 3 月, 査読無
- ⑤ 原 實 “Weapons of Virtue,” *Expanding and Merging Horizons, Contributions to South Asian and Cross-Cultural Studies in Commemoration of Wilhelm Halbfass, Österreichische Akademie der Wissenschaften, Philosophisch-Historische Klasse, Denkschriften* 351, 613-628, 2007 (招待論文)
- ⑥ 原 實 “A Note on *vinaya*,” *Journal of Pali Text Society*, Vol. 29, 285-311, 2007, 査

読有

- ⑦ 原 實 「古代インドの草木観(1)」『超域アジア研究報告 - 付 歴史・文化研究』4 号, 46-93, 2007, 査読無
- ⑧ 原 實 「古代インドの草木観(2)」『超域アジア研究報告 - 付 歴史・文化研究』5 号, 81-107, 2008, 査読無
- ⑨ 原 實 「大地(1)」『超域アジア研究報告 - 付 歴史・文化研究』5 号, 53-80, 2008, 査読無
- ⑩ 原 實 “Sleep in Sanskrit Literature: *nidrā* and *svapna*,” *Traditional South Indian Medicine*, Vol. 8, 130-163, 2008, 査読有
- ⑪ (研究協力者) 清水 洋平 「大谷大学所蔵パーリ語貝葉写本『パンニャーサ・ジャータカ』に関わる研究調査報告」、『大谷大学真宗総合研究所研究所報』第 50 号, 20-22, 2007 年 5 月
- ⑫ (研究協力者) 清水 洋平 「菩提樹供養」『古代インドの環境論』平成 18 年～20 年度科学研究費補助金(基盤研究 B)研究成果報告書: 研究代表者 原 實(財団法人東洋文庫研究員), 180-202, 2009 年 3 月、査読無
- [学会発表] (計 7 件)
- ① 松村 淳子 「パーリ文献中のスメーダカタール」日本印度学仏教学会第 58 回学術大会, (四国大学) 2007 年 9 月 5 日
- ② 松村 淳子 「南北両伝の捨身聞偈説話 (Quest for the Verse if Impermanence Story in Southern and Northern Buddhist Tradition)」韓国

仏教学結集大会 東國大學校 (ソウル)
2008年5月17日

③ 松村 淳子 「The Legend of Prince
Sāli in Post-canonical Pali Literature」
The XVth Congress of the International
Association of Buddhist Studies,
エモリー大学 (アトランタ) 2008年6月24日

④ 松村 淳子 「修行の場としての森林と
環境」(パネル 「仏教環境論と現代」) 日本
印度学仏教学会第59会学術大会 愛知学院
大学 2008年9月5日

⑤ 松村 淳子 「Two Apocryphal Jātaka
Stories in Sri Lanka: On their connection to
Mahāyāna Buddhist versions with special
reference to the Tamamushinozushi of Japan
」The 3rd Bi-annual International Conference
of Sri Lanka Association for Buddhist Studies,
Buddha Śrāvaka Bhikṣu University (Anuradha
pura, Sri Lanka) 2008年12月9日

(研究協力者)

⑥ 清水 洋平 「パーリ三蔵にみられる菩提
樹とその供養」東海印度学仏教学会第 54 回
学術大会 (名古屋大学), 2008年7月5日

⑦ 清水 洋平 「菩提樹について—パーリ三
蔵にみられる菩提樹とその供養—」, Bangkok
National Museum Volunteers, Monthly
lecture. バンコック国立博物館 2008年9
月18日

[図書] (計1件)

① 原 實 *Tapas in the Bhagavadgītā*,
Chennai: The Adyar Library and Research
Center, 2007 (ISBN 81-85141-54-1), x+38.

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)
該当せず

○取得状況 (計 件)
該当せず

[その他]

デジタルテキストおよび調査報告を掲載
<http://homepage3.nifty.com/tjum/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松村 淳子 (MATSUMURA JUNKO)
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授
研究者番号: 10239080

(2) 研究分担者・連携研究者

原 實 (HARA MINORU)
東洋文庫・研究部・東京大学名誉教授
研究者番号: 40011283

(平成19年度 研究分担者, 平成20年度
連携研究者)

(3) 研究協力者

清水 洋平 (SHIMIZU YOHEI)
名古屋大学・学術振興会特別研究員

Dr. Petra Kieffer-Pülz

(ドイツ・ハレ大学講師)

Dr. Reinhold Grünendahl

(ドイツ・ニーダーザクセン州および大学図
書館専門研究官)